

日本一の銀杏のまちが推進する人と環境にやさしい観光地づくり

祖父江町商工会

稲沢市

団体概要

団体名： 祖父江町商工会

代表者： 会長 田中 浩三

団体目的： 商工会は「商工法」に基づいて設立された公益法人で商工業者の方々によって自主的に運営され、地域の商工業の総合的な改善・発達と社会一般の福祉の増進に資する事を目的に活動

活動地域

稲沢市祖父江町

取組の経緯・背景と目的

祖父江町は、生産量日本一の銀杏のまちであり、地域活性化を目的に取り組み始めた「イチョウ黄葉まつり」は、開催9日間で15万人が訪れるまつりである。しかし、まつり開催中の観光客の違法駐車、交通渋滞などが地域の大きな問題となっている。また、一時的な観光客の入り込みは、景気低迷で落ち込む飲食店など地元商店にとって、地域の活性化にはつながっていない。そこで、銀杏林が名鉄尾西線山崎駅周辺に広がっていることから、平成22年度に、クルマから鉄道利用への観光客の交通手段の切り替えと春の新緑など四季それぞれの銀杏林の美しさを活かした通年型観光地づくり「ヘルスツーリズム（自転車エクササイズ、セラピーウォーキング、ノルディックウォーキング）」を企画し、「人と環境にやさしい観光地づくり」をテーマに、「ヘルスツーリズムの知名度を高め、観光客の増加」、「観光客による車起因問題の解消（公共交通機関の利用促進）」を目指し、取組を実施している。

モデル事業のポイントと取組内容

取組年度：平成23年度

■取組のポイント

- ・地域資源と「健康」を結びつけたヘルスツーリズムの導入
- ・健康づくりをコンセプトにした「エコモビ」の普及啓発

■取組内容

○祖父江銀杏林セラピーウォーキング

- ・銀杏林のある名鉄尾西線山崎駅前を発着点とし、第1回は祖父江町山崎から善光寺の往復約8.8kmのコースを設定し、第2回は「そぶえイチョウ黄葉まつり」期間中に山崎地区一帯3.3kmのコースを設定して実施。
- ・名鉄尾西線山崎駅から徒歩3分の祐専寺を集合場所とすることで、駅からのアクセス性を高めた。
- ・開始時に「エコモビ」について概要を説明し意識啓発を実施。

○そぶえノルディックウォーキング

- ・国営木曽三川公園ワイルドネイチャープラザを会場に、砂像彫刻が見学できる「ノルディックウォーキング」を開催。
- ・コースは、祖父江ふれあいの郷と国営木曽三川公園ネイチャーワールドの往復約5.0km。
- ・開始時に「エコモビ」について概要を説明し意識啓発を実施。



ノルディックウォーキングの様子

○尾張七福神めぐり自転車エクササイズ

- ・尾張七福神を自転車でめぐるスタンプラリー大会。
- ・電車で訪れた方も自転車エクササイズに参加できるようにレンタル自転車を準備した。
- ・名鉄尾西線森上駅前レンタサイクルステーション前を発着点とし、駅からのアクセス性を高めた。
- ・開始時に「エコモビ」について概要を説明し意識啓発を実施。



自転車エクササイズの様子

■取組における展開方法・工夫等

- ・公共交通の利用促進を前面に出すのではなく、健康という側面に直接的に訴えかける取組を実施することで、「エコモビ」を知ってもらうきっかけを創出。
- ・「そぶえイチョウ黄葉まつり」の期間中に運行する無料シャトルバスやワゴンバスと連携し、電車とバスによる会場へのアクセスを可能とする環境づくり。

■取組の効果

- ・参加者の満足度は高く、新聞などマスコミに取り上げられたこともあって、「ヘルスツーリズムの認知度を高める」ことができ、今後は「観光客の増加」につながることを期待される。
- ・ヘルスツーリズムに「エコモビ」を絡ませることで参加者の「エコモビ」に対する理解及び関心を高めた。

今後の課題及び展望

- ・「観光客による車起因問題の解消をめざす」ことを掲げて実施したが、路上駐車は減少せず、「名鉄電車」及び「コミュニティバス」との連携を強め、公共交通機関利用の呼びかけが必要。
- ・ヘルスツーリズムに「エコモビ」を絡ませることにより、「エコモビ」を知ってもらうきっかけとなるので、今後は、参加者が「エコモビ」をより理解できる仕組みが必要。
- ・地域ボランティア団体や地元銀杏農家などの協力を得て「ヘルスツーリズム」に「エコモビ」を絡ませた大会開催を継続して行うことで地域活性化の実現につなげる。

